

14.4-797

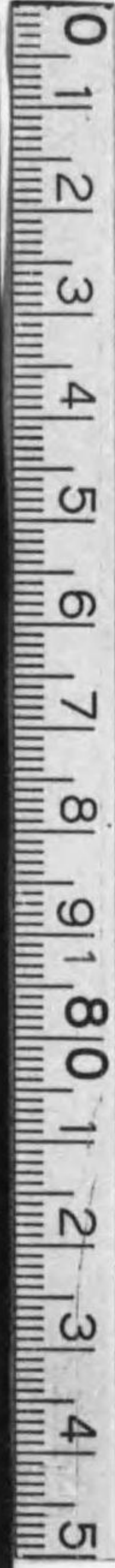


1200501208688

14.4

797

鑛夫疾患調査統計



始



鑛夫ノ疾患ニ關スル統計

日本鑛山協會

鑛夫ノ疾患ニ關スル統計

緒言 一

第一章 傷病者ニ關スル統計(業務上ノ死傷者ヲ除ク) 一

患者數及罹患率 二

總罹患率累年比較 五

疾患ノ種類 七

病類比較 七

累年比較 一四

(三) 主要疾病ノ概要 一八

第二章 死亡者及重傷病者ニ關スル統計 二三

一、死亡者 二三

(一) 死亡者數及死亡率 二三

目次





鑛夫ノ疾患ニ關スル統計

緒言

本邦鑛山ニ於ケル衛生狀況ヲ知ル資料トシテ鑛夫ノ疾患ニ關シ全國的ニ統計セラレタルハ鑛業警務規則公布以後ニシテ大正五年以前ニハ其ノ資料ヲ有セス、即チ本調査ハ專ラ商工省鑛山局編纂本邦鑛業ノ趨勢ニ於テ大正六年以降最近十年間ニ發表セラレタルモノニ依ル

調査資料ハ鑛夫死傷病者半年報及鑛夫死傷病者月報ニシテ前者ハ主要鑛山ノミニ就キ業務上災害負傷者ヲ除キタル鑛夫ノ業務外罹患者ヲ統計シ、後者ハ試掘鑛山タルト探掘鑛山タルトヲ問ハス全鑛山ニ就キ總テ重篤ナル傷病者ノミヲ調査セルモノナリ、即チ半年報ニ於テハ災害負傷者ヲ除ケル鑛夫ノ業務外疾患ノ概況ヲ察知シ、月報ニ依リテ死亡其ノ他重篤ナル鑛夫傷病發生ノ概況ヲ知ルヘシ、然ルニ月報ニ於テハ傷病者ノ災害ニ因ルモノト然ラサルモノトノ區別明瞭ナラス又半年報ニ於テモ災害ニ因ル負傷者ノ除外ニ付疑ハシキ報告アル等調査資料ニ遺憾ノ點ナキニ非サルモ本統計ハ本邦ニ於テ全國的ニ集計セラレタル鑛山從業者ノ疾病ニ關スル唯一ノ統計ニシテ鑛山ノ衛生概況ヲ察スルニ足ルヘキモノト信ス

第一章 傷病者ニ關スル統計 (業務上ノ死傷者ヲ除ク)

第一章 傷病者ニ關スル統計

目次

(二) 死亡者病類	二七
二、傷病解雇者及治癒重傷病者	二九
(一) 傷病解雇者數及治癒重傷病者數	二九
(二) 傷病解雇者率及治癒重傷病者率	三〇
(三) 重傷病者率累年比較	三一
(四) 重傷病者ノ病類	三六
三、死亡者及重傷者ノ負傷部位	四〇
總括	四四

本章ニ於テ述フル所ハ鑛夫死傷病者半年報ニ付調査セルモノナリ、半年報ハ鑛夫ノ業務上災害負傷者ヲ除ケル所謂業務外患者ニシテ死者及三日以上休業醫療ヲ受ケタルモノヲ統計スルモノナレトモ休業三日ニ滿タサル者ヲモ集計セラレタル疑アリ且後ニ述フルカ如ク負傷者甚タ多ク總患者ノ約二割ヲ占ムルカ如キハ災害負傷者ノ一部加算セラレタルモノアルカ如シ、調査鑛山ノ範圍ハ常時五百人以上ノ鑛夫ヲ就業セシムル石炭山及常時三百人以上ノ鑛夫ヲ就業セシムル其ノ他ノ鑛山ナルモ尙鑛山監督局長指定シタル少數ノ鑛山ヲ含ム此等調査鑛山ノ鑛夫數ハ十年間ノ平均ニ於テ全國鑛山總鑛夫數ノ七割四分ニ相當セルヲ見ル、而シテ此等ノ大鑛山ニ在リテハ殆ント悉ク鑛業權者ノ經營セル鑛山附屬診療所ヲ有シ然ラサルモノニ在リテモ囑託醫師ヲ設ケ從業者ノ治療ニ就キ療養費ノ輕減其ノ他便宜ノ施設ヲ計レルヲ以テ一般社會ニ於ケル場合ヨリ醫療ヲ求ムル者多カルヘシ

一、患者數及罹患率

最近十年間(大正十一年ヲ缺ク)ニ於ケル患者ノ總數ハ男二百萬五千八百九十五人、女八十四萬八千二百三十三人、合計二百八十五萬四千二百二十八人ニシテ調査鑛山ニ於ケル在籍鑛夫數六月及十二月末日現在數ノ平均)ニ對スル割合即チ總罹患率ハ鑛夫千人ニ付平均一年間患者數男千〇五十四人、女千四百五十六人、男女平均千四百四十八人ニシテ鑛山從業者ハ各人一年一回強罹患スルモノナルヲ知ル、而シテ患者ノ數ニ於テ男ハ女ノ二・三倍ナレトモ總罹患率ハ女高率ニシテ男ノ一・三倍ナリ

此等患者ヲ疾病及負傷ニ大別スレハ負傷者總數五十五萬八百七十一人ニシテ總患者ノ一割九分ヲ占メ男女性別ニハ總患者ニ對シ男ハ負傷者二割二分、女ハ負傷者一割三分ナリ、而シテ負傷ヲ除ケル疾病ノミニ付罹病率ヲ求ムレハ在籍鑛夫千人ニ付罹病者男八百二十三人、女千二百六十六人、男女平均九百二十七人ニシテ女罹病率ハ男ノ一・五倍ナリ

以上述フル所ノ患者ヲ鑛種別ニ調査スレハ石炭山著シク多數ニシテ二百五十三萬五千二百二十二

人總患者ノ八割九分ヲ占メ、金屬山之ニ次キ二十九萬二千七百三十七人總患者ノ一割強ナリ、而シテ其ノ他ノ鑛山ハ極メテ少數ニシテ僅カニ石油山七千七百七十八人、其ノ他非金屬山一萬八千三百九十一人ヲ算スルノミ、此等罹患患者ノ鑛夫數ニ對スル割合即チ總罹患率ハ鑛夫千人ニ付石炭山千二百七十八人、其ノ他非金屬山九百八十八人、金屬山六百二十七人、石油山百七十七人ニシテ石炭山甚タ高率ヲ示シ金屬山ニ比シ約二倍ナリ、尙之ヲ男女性別ニ觀察スレハ左ノ如シ

石炭山 患者數男ハ女ノ二・一倍ナルモ總罹患率及罹病率ハ女却テ高率ニシテ總罹患率男ノ千七百七十五人ニ對シ女千五百七十一人罹病率男ノ九百〇三人ニ對シ女千三百六十三人ヲ示シ女ハ男ノ一・三倍若ハ一・五倍ナリ

金屬山 患者數男ハ女ノ七・五倍ナルモ鑛夫數ニ對スル割合ハ殆ント同率ニシテ鑛夫千人ニ付總罹患率男六百三十三人、女五百八十五人、罹病率男五百四十一人、女五百三十七人ナリ

石油山 患者數男ハ女ノ十九倍弱ニ相當シ、鑛夫數ニ對スル割合ハ總罹患率男百八十八人、女八十六人、罹病率男百六十八人、女八十一人ニシテ各男ハ女ノ約二倍ナリ

其ノ他非金屬山 患者數男ハ女ノ約十倍ニシテ甚タ多數ナルモ總罹患率及罹病率ニ於テハ石炭山ニ於ケルカ如ク女却テ高率ヲ示シ、總罹患率男九百七十六人ニ對シ女千〇二十三人、罹病率男七百五十三人ニ對シ女九百十八人ナリ

第一表 負傷疾病別患者數及罹患率 (業務上ノ死傷者ヲ除ク)

自大正六年至昭和元年集計(但大正十一年ヲ缺ク)

鑛種別	性別		患者數			罹患率		
	男	女	計	負傷率	罹病率	總罹患率		
石炭山	三九八、五三九	一〇七、〇八八	一、三三五、八五四	二七・四八%	九〇・三二%	一、二七四、六三三		
金屬山	三〇、六二七	四〇、四二七	二、〇九、九五五	二五・四八%	一、〇三三、八四	一、二七〇、六六		
石油山	三、七五七	二、八八〇	二、九、九四五	九・三三%	五四〇・九八	六、三三二		
其ノ他非金屬山	一八一	三、七九二	六、五三三	二〇・三三%	一五九・五二	一、七九七、四		
計	八五五	八三一	六、五三三	一八・七三%	八・〇七	八、六三三		
計	一、四四一	一、五七四	三、〇一五	一八・七三%	一、五二六、七	一、七〇四、〇		
計	三、七九二	一、八一	四、六〇三	一五・五五%	七、五七三	九、七六・一八		
計	一、四四一	一、五七四	三、〇一五	一八・七三%	一、五二六、七	一、七〇四、〇		
計	三、七九二	一、八一	四、六〇三	一五・五五%	七、五七三	九、七六・一八		

合	計		計		計		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
合	三、七九二	一、八一	四、六〇三	一、五七四	三、〇一五	一、五七四	一、五二六、七	一、七〇四、〇
計	三、七九二	一、八一	四、六〇三	一、五七四	三、〇一五	一、五七四	一、五二六、七	一、七〇四、〇
計	三、七九二	一、八一	四、六〇三	一、五七四	三、〇一五	一、五七四	一、五二六、七	一、七〇四、〇
計	三、七九二	一、八一	四、六〇三	一、五七四	三、〇一五	一、五七四	一、五二六、七	一、七〇四、〇

備考

- 一、本表ニ示ス患者數ニハ業務上災害ニ因ル負傷者ヲ合マス
- 二、罹患率ハ毎年六月及十二月末現在々籍鑛夫ノ平均數ニ對スル千分率ニシテ平均一年間ノ業務外負傷者ノ率、罹病者ノ率及負傷疾病ヲ合シタル總罹患者ノ率ヲ示スモノナリ

二、總罹患率累年比較

鑛業ノ盛衰ニ伴ヒテ鑛夫員數ニ累年甚シキ増減アル爲メ患者實數ヲ累年比較スルモ其ノ意義大ナラサルヲ以テ鑛夫員數ニ對スル總患者ノ割合即チ總罹患率ヲ累年比較スルニ止ム
 全鑛山ノ平均總罹患率ハ最近十年間ニ於テ在籍鑛夫千人ニ付患者數常ニ千人ヲ超エ、最低大正六年千〇三十六人、最高大正十年千三百四十五人ノ間ヲ上下セリ、而シテ大正八年九年及十年ノ三年間ハ累年ニ比シ著シク高率ヲ示セルハ主トシテ流行性感冒ノ影響ト認メラレ大正十二年ニ至リテ稍急激ニ減少シ爾來逐年低下ノ傾向ヲ示シ昭和元年ニ於テハ殆ント大正六年ニ於ケルト同率ヲ示セリ之ヲ鑛種別ニ觀察スレハ左ノ如シ

石炭山總罹患率 各種鑛山ノ中ニ在リテ石炭山ハ常ニ最高率ヲ示シ大正六年ノ千百〇四人ヲ最低トシ、大正八年ノ千五百四十七人ヲ最高トス、而シテ大正八年乃至大正十年ノ三年間ハ著シク高率ヲ

示セルモ大正十二年急激ニ其ノ率低下シ爾來逐年甚シキ増減ヲ示サス
 金屬山總罹患率 大正六年ヨリ逐年増率シ大正九年ニ於テ最高七百三十四人ヲ示シタルモ爾來漸
 次低下シ昭和元年ニ於テ最低四百六十二人トナレリ
 石油山總罹患率 累年其ノ率最下位ニアリテ最高率ヲ示セル大正七年ニ於テモ僅カニ三百三十人
 ニ過キス而シテ累年ノ比較ニ於テハ高低一樣ナラサルモ大正十四年ニ於ケル百十一人ヲ最低トス
 其ノ他非金屬山總罹患率 累年著シク不同ニシテ大正八年ニ於ケル千五百〇六人ヲ最高トシ大正
 十三年千二百四十五人之ニ次キ大正六年五百二十六人ヲ最低トスルモ概シテ石炭山ニ次キテ高率
 ナリ

第二表 業務外鑛夫總患者數及總罹患率累年表

年次	石炭山		金屬山		石油山		其ノ他非金屬山		合 計	
	鑛夫數	罹患率	鑛夫數	罹患率	鑛夫數	罹患率	鑛夫數	罹患率	鑛夫數	罹患率
大正六年	一八,五三七	三,四八七	九,四〇〇	六,九〇〇	五,三〇〇	六,六六六	三,四〇〇	一,八六六	三六,一〇〇	一,〇〇〇
同 七 年	一〇,七〇〇	三,八五八	八,八八八	五,九〇〇	四,七〇〇	一,五五五	三,九〇〇	一,八六六	三〇,一〇〇	一,〇〇〇
同 八 年	一〇,九八〇	三,四三三	六,二四六	六,九〇〇	五,〇三三	一,五五五	三,七〇〇	一,八六六	三〇,一〇〇	一,〇〇〇
同 九 年	一〇,八六〇	三,四三三	五,一八〇	七,三〇〇	五,〇三三	一,八〇〇	一,五五五	一,八六六	三〇,一〇〇	一,〇〇〇
同 十 年	二九,六四〇	三,七七八	三,七五〇	三,三〇〇	四,九〇〇	一,六六六	三,〇〇〇	一,八六六	四〇,一〇〇	一,〇〇〇
同 十 一 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 十 二 年	二五,九九九	二,八五八	三,八八八	三,三〇〇	四,七〇〇	一,二二二	一,八六六	一,八六六	三〇,一〇〇	一,〇〇〇

年次	石炭山		金屬山		石油山		其ノ他非金屬山		合 計	
	鑛夫數	罹患率	鑛夫數	罹患率	鑛夫數	罹患率	鑛夫數	罹患率	鑛夫數	罹患率
同 十 三 年	三三,六四〇	三,五〇〇	四,〇三六	一,八五七	四,七七八	一,四三三	一,八六六	三,四〇〇	四〇,一〇〇	一,〇〇〇
同 十 四 年	三三,一四一	三,四八八	四,〇三六	一,八五七	四,七七八	一,四三三	一,八六六	三,四〇〇	四〇,一〇〇	一,〇〇〇
同 十 五 年	三〇,九八三	三,四三三	三,七五〇	三,三〇〇	四,九〇〇	一,六六六	三,〇〇〇	一,八六六	三〇,一〇〇	一,〇〇〇
昭 和 元 年	三〇,四七四	二,八五八	三,八八八	三,三〇〇	四,七〇〇	一,二二二	一,八六六	一,八六六	三〇,一〇〇	一,〇〇〇
平 均	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

備考 一、鑛夫數ハ調査鑛山ニ於ケル六月及十二月末日現在鑛夫數ヲ平均シタルモノナリ
 二、患者數ハ業務上災害負傷者ヲ除キタル總患者數ニシテ死亡者及三日以上休業醫療ヲ受ケタ
 ル者トス
 三、罹患率ハ上記ノ鑛夫數ニ對スル患者數ノ千分率ナリ

三、疾患ノ種類

(一) 病類比較
 最近十年間ノ鑛種別性別病類比較ハ第三表ニ示スカ如ク各鑛種ヲ通シテ概シテ呼吸器疾患及消化
 器疾患多數ナルモ既ニ述ヘタルカ如ク一般ニ負傷著シク多シ鑛種別病類比較左ノ如シ
 石炭山 男鑛夫ニハ負傷最モ多數ニシテ總疾患ノ二割三分ヲ占メ、消化器疾患二割弱、及ヒ呼吸器疾
 患一割六分之ニ次ク、其ノ他比較的多數ナルハ皮膚病ナリ、女鑛夫ニ於テハ消化器疾患最モ多數ニシ
 テ二割三分ヲ占メ呼吸器疾患一割八分及ヒ負傷一割三分之ニ次キ、其ノ他皮膚病及子宮疾患稍多數
 ナリ
 金屬山 男鑛夫ニハ呼吸器疾患最モ多ク二割三分ヲ占メ消化器疾患之ニ次キ二割一分ヲ示シ、其ノ

他負傷一割五分多數ナリ、女鑛夫ニテハ消化器疾患及呼吸器疾患著シク多數ニシテ各二割以上ナルモ、負傷ハ遙カニ少クシテ僅カニ八分ニ過キス

石油山 男鑛夫ニハ呼吸器疾患二割最モ多ク消化器疾患一割六分、負傷一割一分之ニ次キ其ノ他脚氣稍多數ナリ、女鑛夫ニテハ呼吸器疾患一割五分、消化器疾患一割三分其ノ他負傷及子宮疾患稍多數ナルモ第二位ヲ占ムル病類ハ傳染性病及全身病ナリ

其ノ他非金屬山 男鑛夫ニテハ石炭山ニ於ケルト同シク負傷者最モ多數ニシテ二割三分ヲ占メ、其ノ他消化器疾患一割七分、呼吸器疾患一割二分之ニ次キ、女鑛夫ニテハ呼吸器疾患及ヒ消化器疾患各二割ニシテ最モ多數ナリ

主ナル病類ニ付テ鑛種別ニ之ヲ比較シ其ノ原因ヲ推想スレハ左ノ如シ

呼吸器疾患ハ金屬山、石油山、石炭山、其ノ他非金屬山ノ順位ヲ示スモ鑛夫數ニ對スル罹病率ニ於テハ石炭山、金屬山、其ノ他非金屬山、石油山ノ順位ニ在リテ就中石油山ハ極メテ罹病率小ナリ、但シ坑内作業ノ有無ニ關スル處多キモノ、如シ蓋シ作業上呼吸器疾患ノ原因トシテ粉塵ノ吸入ニ因ル障害及氣温ノ激變ニ伴フ感冒性呼吸器障害ヲ主要ナルモノトス、即チ前者ハ金屬山ニ於テ有害鑛塵殊ニ矽石塵ノ發生多キニ對シ後者ハ石炭坑内ニ高温度作業場少ナカラサルニ依ルモノト認メラル
消化器病ハ病類比較ニ於テ金屬山及石炭山殆ント相等シク共ニ甚タ多數ナルモ罹病率ニ於テハ石炭山著シク高率ヲ示シ特ニ消化器疾患中十二指腸蟲罹病率ハ石炭山ニ於テ其ノ他ノ鑛山ヨリモ著シク高率ナリ、蓋シ石炭坑々内カ十二指腸蟲病感染ノ機會大ナルニ因ルモノト認メラレ石炭坑々内

衛生上注意ヲ要スルモノナリ

法定傳染病ノ過半数ハ「チフス」及「バラチフス」ニシテ其ノ他ノ傳染病ハ其ノ數多カラス、其ノ罹病率ハ石炭山ニ於テ稍高率ヲ示ス、又石油山ニテハ總罹病率ノ極メテ低率ナルニ拘ラス比較的其ノ率大ナリ、蓋シ石炭山及石油山ニテハ良好ナル飲料水ヲ得ルコト困難ナルト其ノ位置都會地ニ隣接スル場合少ナカラサルトニ歸スヘキモノナルカ如シ

結核ハ各種鑛山共ニ其ノ數多カラスト雖モ之ヲ相互比較スレハ其ノ罹病率ハ石炭山第一位ヲ示シ金屬山及其ノ他非金屬山之ニ次キ、坑内作業ヲ有セサル石油山ハ極メテ低率ナリ、而シテ呼吸器ニ對シ炭塵ハ比較的無害ト認メラル、ニ拘ラス最モ有害ナル矽石塵ヲ發散スルコト多キ金屬山ニ於ケルヨリモ石炭山ノ結核罹病率遙カニ高率ナルハ注目ニ値スルモノナリ

脚氣病ハ病類比較ニ於テ石油山甚タ多數ナルニ拘ラス其ノ罹病率ハ却テ石炭山及其ノ他非金屬山甚タ高率ニシテ石油山ハ最モ低率ナリ、而シテ脚氣カ食餌ノ種類ニ歸因スルモノニシテ特ニ白米食ニ關係スルトコロ大ナルニ鑑ミレハ之カ改善ヲ計ルハ鑛山ノ衛生上緊急ノ問題ナリ

寄生蟲病ハ其ノ罹病率石炭山ニ於テ著シク高率ナリ、然レトモ消化器疾患ノ中ニ數フヘキ蛔蟲症カ本病中ニ集計セラレタルモノ甚タ多キヲ以テ必スシモ憂慮ニ値スルモノアルヲ認メス

神經系疾患ハ石炭山及金屬山ニ著シク多數ニシテ其ノ主ナルモノハ神經痛及神經衰弱ナルカ如シ、蓋シ坑内濕潤ニヨル健康障害カ神經痛ノ因ヲナスコト多キニ鑑ミレハ當然ノ歸結ナル可シ
微毒及淋疾ハ石炭山稍著シク多數ニシテ石油山ニ甚タ少數ナリ、石炭山ハ其ノ位置市街地ニ隣接ス

ルコト多キヲ以テ四圍ノ狀況ニ支配セラル、爲メト推測セラル、モ之ト事情稍等シキ石油山ニ少
數ナルヲ見レハ從業者ノ衛生知識殊ニ性病ニ關スル知識ノ普及程度並ニ道德的自制力ノ向上ヲ促
進スルコト必要ナルカ如シ、又其ノ他非金屬山カ殆ント悉ク偏陋不便ノ地域ニ存スルニ拘ラス性病
患者率石炭山ニ次キテ大ナルハ注目スヘキ點ナリ

子宮疾患ハ各礦種共大差ナキニ拘ラス其ノ罹病率ハ石炭山ニ於テ著シク高率ナリ、蓋シ石炭山ニ於
テハ女傭夫ノ後山トシテ比較的過激ナル勞働ニ從事者多數ナルノミナラス、前述ノ如ク微毒淋疾等
ノ性病患者多數ナル爲メナルヘシ

「ロイヤチス」ハ金屬山及石炭山ニ於テ罹病率稍高率ナリ神經痛ニ於ケルト同一ノ關係ニアルモノト
認めラル

外因ニヨル疾患殊ニ負傷ハ一般ニ甚タ多數ナルモ就中石炭山及其ノ他非金屬山ニ於テ負傷者率著
シク高率ヲ示ス、然レトモ之カ理由トシテ顯著ナル原因ノ數フヘキモノヲ認ムルコト能ハス、個々ノ
報告ニ就テ見レハ業務外負傷カ業務上災害ニヨル負傷者ヲ凌駕スルモノアリ此等ハ統計ニ際シ業
務上負傷ノ誤算セラレタルモノアル爲メニシテ現ニ報告ヲ訂正シ來ルモノアリ、即チ負傷者ノ中ニ
ハ業務上災害ニ因スルモノヲモ一部包含スルモノト認めラル

第三表ノ一 業務外罹患者性別病類比較

病名	石炭山		金屬山		石油山		其ノ他非金屬山	
	男	女	男	女	男	女	男	女
結核	1,050	800	1,200	900	1,500	1,100	1,800	1,300
梅毒	1,200	900	1,500	1,100	1,800	1,300	2,200	1,600
白氣症	1,500	1,100	1,800	1,300	2,200	1,600	2,500	1,800
寄生蟲病	1,800	1,300	2,200	1,600	2,500	1,800	3,000	2,200
其他	2,000	1,500	2,500	1,800	3,000	2,200	3,500	2,500
總計	7,550	5,600	9,200	6,700	11,000	8,000	15,500	11,400

傳染性病類	及全身病								神經系疾患	血行器疾患	呼吸器疾患	消化器疾患	泌尿器疾患	生殖器疾患	其他
	法防染病條一第	赤チラチブス	其	結核	微毒	脚氣	蒼白	寄生蟲							
	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他							
第一條	1,050	800	1,200	900	1,500	1,100	1,800	1,300	1,800	1,300	2,200	1,600	2,500	1,800	2,200
第二條	1,200	900	1,500	1,100	1,800	1,300	2,200	1,600	2,500	1,800	3,000	2,200	3,500	2,500	
第三條	1,500	1,100	1,800	1,300	2,200	1,600	2,500	1,800	3,000	2,200	3,500	2,500	4,000	3,000	
第四條	1,800	1,300	2,200	1,600	2,500	1,800	3,000	2,200	3,500	2,500	4,000	3,000	4,500	3,500	
第五條	2,000	1,500	2,500	1,800	3,000	2,200	3,500	2,500	4,000	3,000	4,500	3,500	5,000	4,000	
總計	7,550	5,600	9,200	6,700	11,000	8,000	15,500	11,400	15,000	11,000	16,000	12,000	21,000	15,000	

計	外因ヨリ 患疾ル		皮膚及筋 患疾ノ器	
	其 ノ	中 ノ	其 ノ	ロイ マチ ス
10000	999	399	210	626
10000	996	310	177	644
10000	998	399	199	631
10000	1009	297	286	588
10000	1009	397	268	499
10000	1006	299	244	555
10000	1005	299	173	679
10000	1007	597	100	606
10000	1007	597	100	606
10000	1006	399	173	679
10000	1006	399	173	679
10000	1008	599	183	662
10000	1007	599	183	662
10000	1008	599	183	662
10000	1007	599	183	662
10000	1008	599	183	662
10000	1007	599	183	662
10000	1008	599	183	662
10000	1007	599	183	662
10000	1008	599	183	662

備考 自大正六年至昭和元年十年間ニ於ケル患者ノ病類別百分比ナリ

第三表ノ二 業務外罹患者病類別罹患者率

病名	傳染性及病性			
	若 白 症	脚 氣	微 毒	結 核
石炭山	133	255	174	51
金屬山	28	48	88	95
石油山	18	33	39	48
其ノ他非金屬山	48	70	93	29

病名	病性									
	外 傷	皮膚及筋 患疾ノ器	殖生 患疾ノ器	泌尿 患疾ノ器	消化 患疾ノ器	呼吸 患疾ノ器	血行 患疾ノ器	系經神 患疾ノ器	其 他	寄 生 蟲 病
石炭山	254	80	18	22	25	20	45	8	13	65
金屬山	86	17	7	3	13	3	35	1	34	26
石油山	18	2	3	0	2	1	1	0	2	0
其ノ他非金屬山	211	99	11	4	16	6	24	1	10	87

計	ヨル疾		計	ヨル疾	
	中	毒		中	毒
其ノ他	一、二二一・一一	四四・二五	其ノ他	〇・四五	一、〇二六
計	一、二七七・六六	一五・二五	計	五・三二	三六・六三
		六三・七二		二二・二〇	一〇八・五五
		六二七・〇九		一七〇・四〇	九八〇・四九

備考 自大正六年至昭和元年十年間ニ於ケル病類別患者數ノ毎年六月及十二月末日現在々籍職夫數ニ對スル平均一年罹患千分率ナリ

(二) 累年比較

石炭山 外因ニ依ル疾患主トシテ負傷ハ累年各病類ノ首位ニアリ概シテ二割三分以上ヲ占メ最少キ大正九年ニ於テ尙二割一分ヲ示シ、昭和元年ニ於テハ實ニ二割七分ヲ超ユ、消化器疾患ハ殆ント常ニ第二位ニ在リ二割ヲ下ルコト稀ニシテ最高二割三分最低一割六分ナリ、呼吸器疾患ハ概シテ一割六分内外ヲ示シ大正七年一割九分ヲ最高トス、傳染性疾患及ヒ全身病ハ大正七年乃至大正九年ノ三年間著シク多數ナリ但シ流行性感胃ニ關スル事多キモノト認メラル、其他ノ病類ハ比較的増減甚シカラス累年皮膚及運動器疾患及ヒ生殖泌尿器疾患稍多數ナリ

金屬山 呼吸器疾患及ヒ消化器疾患ハ累年二割以上ヲ示シ就中呼吸器疾患首位ヲ占ムルコト多キモ最近ニ於テハ却テ消化器疾患之ヲ凌駕スルニ至レリ、即チ呼吸器疾患ハ大正七年及ヒ大正九年乃至大正十三年ニテハ二割五分以上ヲ示シ、消化器疾患ハ大正十二年ニ於ケル二割四分ヲ最高トシ比較的増減少キモ大正七年著シク少クシテ一割八分ナリ、傳染性病及ヒ全身病ハ大正七年及ヒ八年ニ

多數ニシテ殊ニ大正七年ニハ一割八分ヲ示シ各病類中第二位ナリ但シ流行性感胃ノ影響ニ基クモノト認メラル、外因ニ依ル疾患亦累年甚タ多數ニシテ大正六年ヨリ十年迄順次減少セシモ再ヒ逐年其ノ割合ヲ増シ昭和元年ニ於テハ二割三分ヲ占メ各病類中ニ第一位ナリ、皮膚及ヒ運動器疾患ハ稍多數ナルモ近年多少減少ノ傾向ヲ示セリ

石油山及ヒ其ノ他非金屬山 累年各種病類増減不同甚シキモ石油山ニ於テハ消化器疾患漸次増加ノ傾向ヲ示シ最近三年間ハ常ニ各種病類ノ首位ヲ占メ、外因ニ依ル疾患ハ初メ甚タ多數ナリシモ最近著シク減少セリ、其ノ他非金屬山ニ於テハ概シテ外因ニ依ル疾患及ヒ消化器疾患多數ナルヲ見ルモ大正十年ニハ皮膚及ヒ運動器疾患三割三分並ニ傳染性病及ヒ全身病二割七分甚シク多數ナリ

第四表 業務外職夫罹患者病類比較累年表

一、石炭山

病類	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年
傳染性病及全身病	七・〇三%	一四・〇六%	二二・〇八%	一三・四九%	一〇・〇六%	九・四二%	九・四四%	八・三三%	七・三三%	七・三三%
神經系疾患	三・四六	三・一六	二・三三	三・五七	三・六	三・八八	四・四	四・二九	四・四二	四・四二
血行器ノ疾患	〇・五八	〇・五五	〇・六三	〇・六四	〇・六四	〇・六三	〇・七三	〇・七四	〇・七四	〇・七四
呼吸器ノ疾患	一五・九八	一八・九六	一四・九六	一八・三〇	一六・〇七	一六・〇八	一六・八二	一六・六六	一六・六六	一五・九八
消化器ノ疾患	三三・九	一五・七九	二〇・九	二〇・三三	二二・四五	三三・六	三三・六	三二・六	三〇・九	一九・五五
泌尿生殖器ノ疾患	六・四三	五・六〇	六・三	五・六四	五・〇七	五・七	五・七	五・三	五・九〇	五・二八

病類	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年
皮膚及運動器ノ疾患	九・五	八・四	九・七	八・四	九・三		九・五	八・八	九・九	九・八
負傷及外因疾患	三・七	三・三	四・九	二・〇	三・九		三・八	三・〇	三・六	二・六
其他	一〇・三	九・六	八・〇	八・九	九・六		八・七	九・七	一〇・五	一・二
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	100.0

二、金屬山

病類	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年
傳染性病及全身病	七・四	一・八	九・四	一〇・四	五・〇		六・〇	六・〇	五・三	八・五
神經系疾患	六・〇	四・四	六・二	七・〇	八・四		五・六	五・三	五・六	五・三
血行器ノ疾患	〇・六	〇・五	〇・七	〇・四	〇・五		〇・三	〇・五	〇・七	〇・七
呼吸器ノ疾患	一九・八	三・五	二・七	三・四	三・六		三・六	三・四	三・三	三・一
消化器ノ疾患	三・三	一・七	二・四	三・〇	三・四		四・一	三・〇	三・九	三・七
泌尿生殖器ノ疾患	三・七	三・九	三・六	三・九	三・六		四・一	三・〇	三・九	三・七
皮膚及運動器ノ疾患	九・六	七・二	九・九	九・五	九・六		八・三	八・七	七・四	八・二
負傷及外因疾患	三・三	一・四	六・七	三・七	一・九		一・三	二・六	二・六	三・九
其他	一〇・九	八・三	一〇・七	一〇・六	一〇・九		一一・八	一一・四	一〇・六	八・四
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	100.0

三、石油山

病類	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年
傳染性病及全身病	三・〇	二・八	二・一	三・〇	三・一		三・一	一・五	三・八	二・〇
神經系疾患	八・四	二・四	七・七	五・四	八・四		六・七	一〇・六	八・七	九・五
血行器ノ疾患	一・〇	一・三	〇・五	一・六	一・〇		〇・八	〇・四	〇・〇	〇・五
呼吸器ノ疾患	九・六	三・五	一・五	三・三	四・九		三・九	一・九	一・五	一・六
消化器ノ疾患	二・二	五・四	二・四	一・六	一・八		一・八	二・四	二・四	二・四
泌尿生殖器ノ疾患	五・五	一・四	四・〇	三・九	四・九		三・九	四・〇	六・四	四・六
皮膚及運動器ノ疾患	三・七	〇・七	三・八	三・四	三・六		三・四	五・九	六・七	六・四
負傷及外因疾患	三・〇	八・六	三・五	二・六	一・三		三・四	八・九	二・四	九・三
其他	一・六	三・七	二・六	三・四	二・八		七・三	一〇・九	一・三	七・七
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	100.0

四、其ノ他非金屬山

病類	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年
傳染性病及全身病	九・四	一・八	九・〇	一・六	二・七		四・五	一・八	一・九	一・六
神經系疾患	二・六	一・四	二・四	一・六	一・五		二・五	三・〇	一・八	七・〇
血行器ノ疾患	一・九	〇・二	〇・七	〇・八	〇・一		一・八	〇・五	〇・七	〇・五
呼吸器ノ疾患	一四・八	一七・五	一〇・三	一七・四	二・八		八・八	八・八	一・二	一・六
消化器ノ疾患	三・八	一七・四	二・八	二・三	一・六		三・九	四・五	一・六	一・五

合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
泌尿生殖器ノ疾患	七.三	二.〇	四.三	二.六	三.三	三.〇	二.〇	三.二	二.七
皮膚及運動器ノ疾患	七.三	一.四	九.五	一.〇	三.九	一.一	九.九	一.〇	一.〇
負傷及外因疾患	七.五	一.五	六.七	八.〇	五.九	三.〇	三.七	二.三	一.六
其 他	六.〇	二.二	三.九	二.五	一.四	三.〇	二.五	一.四	一.六

(三) 主要疾病ノ概要

結核 總疾患ニ對スル平均ノ割合ハ金屬山千分ノ五、石炭山千分ノ四、石油山千分ノ三、其ノ他非金屬山千分ノ二ニシテ、在籍鑛夫千人ニ對スル平均一年間ノ患者數ハ石炭山五人、金屬山三人、其ノ他非金屬山二人、石油山〇五人ナリ、而シテ最近十年間ノ罹病率ハ大正九年ヲ最高トシ各種鑛山トモ増加ノ傾向ヲ示スコトナシ

助膜炎 總疾患ニ對スル平均ノ割合ハ石油山千分ノ十四、金屬山千分ノ十一、其ノ他非金屬山千分ノ七、石炭山千分ノ六ニシテ、在籍鑛夫千人ニ對スル平均一年間患者數ハ石炭山八人、金屬山及ヒ其ノ他非金屬山七人、石油山二人ナリ、而シテ累年罹病率各鑛種共ニ増減一様ナラス

脚氣 總患者ニ對スル平均ノ割合ハ石油山百分ノ五、其ノ他ノ鑛山百分ノ二ニシテ、其ノ在籍鑛夫千人ニ對スル平均一年間ノ患者數ハ石炭山二十六人、其ノ他非金屬山二十二、金屬山十四人、石油山九人ナリ、即チ石油山ハ病類比較ニ於テ著シク多數ナレトモ罹病率ニ於テハ却テ低率ナリ、累年ノ傾向ハ一般ニ大正八年ヲ最高トシ爾來漸次減少セリ

微毒 總患者ニ對スル平均ノ割合ハ其ノ他非金屬山千分ノ十五、石炭山千分ノ十四、金屬山千分ノ八、石油山千分ノ二ニシテ鑛夫千人ニ對スル平均一年間ノ患者數ハ石炭山十七人、其ノ他非金屬山十五人、金屬山五人、石油山〇四人ナリ、累年ノ比較ニ於テハ各鑛種トモ大正十年以前ト大正十二年以降トニ顯著ナル差異ヲ示シ最近甚シク減少セルヲ見ル、即チ近年鑛夫ノ衛生思想上セルヲ示スモノト認メラレ欣幸スヘキ傾向ナリ

ロイマチス 總患者ニ對スル平均ノ割合ハ金屬山百分ノ二、其ノ他鑛山約百分ノ一ニシテ、鑛夫千人ニ對スル平均一年間ノ患者數ハ金屬山十三人、石炭山十二人、其ノ他非金屬山十人、石油山二人ナリ、而シテ累年比較ニ於テハ一般ニ増減甚シカラス

第五表 主要疾病罹患者率鑛種別累年表

(一) 結核罹患者率

年次	石炭山	金屬山	石油山	其ノ他非金屬山	合 計
大正六年	五.二七%	三.〇五%	〇.五七%	二.二六%	四.九四%
同七年	五.八七%	三.五五%	一.二七%	三.一〇%	四.四四%
同八年	五.三六%	三.三七%	〇.一七%	八.〇一%	四.六四%
同九年	六.五八%	三.七〇%	〇.一七%	—	五.九七%
同十年	六.〇九%	二.六六%	—	—	五.五四%
同十一年	—	—	—	—	—

年次	平均	昭和元	同十	同十三	大正十二年
石炭山	五・一一	四・四六	四・二七	四・二九	三・八一
金屬山	二・九五	一・七九	二・〇一	二・七三	一・九二
石油山	〇・四八	〇・四六			〇・二一
其ノ他非金屬山	二・二九		〇・五三	一・〇八	二・五三
合計	四・六七	三・九八	三・八六	三・九一	三・五一

(二) 肋膜炎罹患率

年次	平均	昭和元	同十	同十三	大正十二年
石炭山	八・二七	六・六六	七・〇三	八・〇二	七・三一
金屬山	六・八七	六・三四	五・〇五	六・八五	五・五一
石油山	二・四一	一・八三	二・五二	三・八二	二・二三
其ノ他非金屬山	六・五〇	六・七三	四・七三	五・四一	六・三三
合計	七・九九	六・五三	六・六七	七・七八	六・九九

(三) 脚氣罹患率

年次	平均	昭和元	同十	同十三	大正十二年
石炭山	二五・五一	一三・七五	一八・七八	二二・六七	二六・四三
金屬山	一四・一八	四・二四	五・九二	七・二〇	一一・七六
石油山	九・三三	五・九六	五・六三	七・〇一	一八・九三
其ノ他非金屬山	二一・七〇	四・二二	一七・三六	一三・五三	一一・六六
合計	二二・三六	一三・二二	一六・八五	二〇・三六	二四・四二

(四) 微毒罹患率

年次	平均	昭和元	同十	同十三	大正十二年
石炭山	二五・七四	二一・七九	二二・九五		
金屬山	五・四八	五・一五	七・〇八		
石油山	〇・三九	〇・二一			
其ノ他非金屬山	六・九一	九・六四	一四・六九		
合計	一九・八四	一六・五四	一九・二九		

(五) ロイマチス罹患率

年次	石炭山	金屬山	石油山	其ノ他非金屬山	合計
大正九年	二〇・八八	七・二三	〇・八四	五・二四	一八・三四
同十年	二〇・七二	四・九八	一・〇四	二・八一	一八・〇九
同十一年	二二・〇七	二・七一	〇・四三	一・九〇	一〇・六六
同十二年	一一・〇一	一・七〇	〇・四二	二・一六	一〇・四三
同十三年	一一・六四	一・八四	—	一・五八	一〇・〇七
昭和元年	九・六六	一・九七	—	六・七五	八・八二
平均	一七・四三	四・八八	〇・三九	一四・九三	一四・五五

備考 罹患率ハ總テ毎年六月及十二月末日現在鑛夫數ニ對スル千分率ナリ

第二章 死亡者及重傷病者ニ關スル統計

昭和元年	平均
一一・四六	一一・三六
八・八六	一一・九二
二・二九	二・二三
一〇・二三	九・九七
一〇・九三	一一・四一

本章ニ述フル所ハ鑛夫死傷病者月報ニ就キ調査シタルモノニシテ試掘鑛山タルト探掘鑛山タルトヲ問ハス總テ鑛夫ノ死亡者及重傷病者ニ付報告セラル、モノヲ集計セルモノナリ、此處ニ重傷病者ト稱スルハ傷病ノ爲メ解雇セラレタル者及三十日以上休業醫療ヲ受ケ治療シタル者ヲ謂ヒ、此等死亡者及重傷病者ハ業務上災害ニ因ル傷病者タルト否トヲ區別スルコトナシ、然レトモ個々ノ報告ヲ通覽スレハ負傷者ハ殆ント悉ク業務上ノ災害ニ因ルモノニシテ災害ニ關係ナキ業務外負傷者ハ極メテ稀ナリ

一、死亡者

(一) 死亡者數及死亡率

最近十年間(大正十一年ヲ缺ク)ニ於テ負傷又ハ疾病ノ爲メ死亡セルモノニ二萬千四百四十一人アリ、鑛種別ニハ石炭山一萬七千二百十六人ニシテ總死亡者ノ八割ヲ占メ、金屬山三千八百三十五人(一割八分)ニ次キ、其ノ他ハ著シク少ナク石油山二百六十八人、其ノ他非金屬山百二十二人ナリ、即平均一年

間死亡者數ハ石炭山千九百十三人、金屬山四百二十六人、石油山三十人、其ノ他非金屬山十四人、合計二千三百八十二人ニシテ、此等死亡者ノ毎年六月末日現在、鑛夫員數ニ對スル割合即チ死亡率ハ、鑛夫千人ニ付平均一年間死亡者石炭山六・八人、金屬山五・三人、石油山三・七人、其ノ他非金屬山二・〇人、全鑛山ノ平均ハ六・四人ナリ

此等死亡者ヲ男女性別ニ比較スレハ一般ニ男鑛夫ノ死亡者著シク多數ニシテ最近三年間ノ統計ニ於テ男死亡者數ハ女ノ五・八倍ニ相當シ鑛種別ニハ男死亡者ハ女死亡者ニ比シ石炭山五・二倍、金屬山一・四倍、其ノ他ノ鑛山約三・〇倍ノ多數ヲ出セリ、鑛夫數ニ對スル割合即チ死亡率ハ、男女性別ノ差異比較的少キモ尙常ニ男ハ女ヨリ高率ニシテ全鑛山ノ平均ニ於テ男死亡者數ハ女ノ二倍弱ヲ示シ、鑛種別ニハ石炭山一・九倍、金屬山二・一倍、石油山三倍、其ノ他非金屬山二・六倍ナリ、尙同一統計ニ於テ死亡者ヲ負傷及疾病ニ大別スレハ全鑛山ニテハ疾病死亡者稍多ク總死亡ノ五割六分ヲ示シ、男女性別ニハ疾病死亡者數男ハ五割五分、女ハ六割五分ナリ、鑛夫數ニ對スル死亡率ハ、鑛夫千人ニ付疾病死亡者男ハ三・六人、女ハ二・四人、負傷死亡者男ハ三・〇人、女ハ一・三人ニシテ疾病死亡者率男ハ女ノ一・五倍ナルニ對シ、負傷死亡率ハ二・三倍ナリ、之ヲ鑛種別ニ觀察スレハ、負傷死亡者率石炭山ハ男三・五人、女二・一人ニ對シ、金屬山ハ男一・四人、女〇・三人、疾病死亡者率石炭山ハ男三・八人、女二・五人ニ對シ、金屬山ハ男三・六人、女二・一人ニシテ、負傷ニヨル死亡率石炭山男ハ金屬山男ノ二・六倍、石炭山女ハ金屬山女ノ四・二倍ナルモ、疾病ニヨル死亡率ハ男女トモニ石炭山及金屬山殆ント同一ナリ、即チ石炭山ニ於ケル作業ノ危険率甚タ高キヲ示ス

死亡率ノ累年比較ハ大正七年乃至大正九年ノ三年間稍高率ヲ示セルモ概シテ増減甚シカラズ前記三年間ハ全國的ニ猛威ヲ逞フセル流行性感冒ノ影響ニ因ル所些ナカラサルモノノ如シ

第六表ノ一 鑛夫死亡者數及死亡率累年表

年次	石炭山		金屬山		石油山		其ノ他非金屬山		合計	
	鑛夫數	死亡者數	鑛夫數	死亡者數	鑛夫數	死亡者數	鑛夫數	死亡者數	鑛夫數	死亡者數
大正六年	二五〇、四四一	一、六六八	一六五、一五二	六、五八〇	八、〇三三	二、八八六	二、〇一九	四三三、八四三	二、三三〇	五、七〇七
同七年	二六七、九五九	二、〇〇六	一六〇、九六〇	一、一六六	八、〇三三	二、八八六	二、〇一九	四三三、八四三	二、三三〇	五、七〇七
同八年	二四八、四〇〇	二、六三三	一〇〇、八〇〇	五、七〇七	七、八八三	二、八八六	二、〇一九	四三三、八四三	二、三三〇	五、七〇七
同九年	二四三、八七五	二、八八九	七六、八四三	五、三三三	八、六四四	二、八八六	二、〇一九	四三三、八四三	二、三三〇	五、七〇七
同十年	二六六、六四四	一、六九九	四三、四三三	二、五五五	八、七四五	二、八八六	二、〇一九	四三三、八四三	二、三三〇	五、七〇七
同十一年	二七六、七七二	一、六六八	四一、九七二	二、二二二	七、四八五	二、八八六	二、〇一九	四三三、八四三	二、三三〇	五、七〇七
同十二年	二七六、七七二	一、六六八	四一、九七二	二、二二二	七、四八五	二、八八六	二、〇一九	四三三、八四三	二、三三〇	五、七〇七
同十三年	二五五、〇九六	一、七四四	四三、三六一	二、〇〇〇	六、九三〇	二、八八六	二、〇一九	四三三、八四三	二、三三〇	五、七〇七
同十四年	二五三、八八六	一、五五三	四三、三六一	二、〇〇〇	七、三三〇	二、八八六	二、〇一九	四三三、八四三	二、三三〇	五、七〇七
昭和元年	二五三、八八六	一、四二二	四三、三六一	二、〇〇〇	六、四三六	二、八八六	二、〇一九	四三三、八四三	二、三三〇	五、七〇七
平均一年	二七九、三三三	一、九三三	一〇〇、八〇〇	四、七〇七	八、〇三三	二、八八六	二、〇一九	四三三、八四三	二、三三〇	五、七〇七

備考 一、鑛夫數ハ毎年六月末日現在々籍員數ナリ

二、死亡者ハ業務上災害ニ因ルト否トヲ問ハス總テ鑛夫トシテ死亡セル者ノ總數ナリ

三、死亡率ハ死亡者ノ前記鑛夫數ニ對スル千分率ナリ

第六表ノ二 負傷疾病別鑛夫死亡者數及死亡率

鑛種別	年次	死亡者數				死亡率				
		死傷		疾病		死傷		疾病		
		男	女	男	女	男	女	男	女	
石炭山	大正十三年	七八八	一〇〇	七六〇	一五八	一七四	四〇六	八〇九	四〇三	七〇七
	同十四年	六九五	九三	六九七	一五八	一五五	三〇四	三〇三	六八七	四〇三
	昭和元年	六三三	六六	六〇八	一五八	一五五	三〇四	三〇三	六八七	四〇三
合計	一九八〇	二〇二	一七七八	四七二	五〇二	一〇一〇	一〇一〇	一九八〇	二〇二	一七七八
金屬山	大正十三年	三五	三	三二	一五	一〇	一八	一〇	一〇	二八
	同十四年	六六	一	六五	一五	一〇	一八	一〇	一〇	二八
	昭和元年	六六	一	六五	一五	一〇	一八	一〇	一〇	二八
合計	一二七	四	一二三	四〇	二〇	四四	二〇	二〇	五六	
石油山	大正十三年	一六	一	一五	一	一	一	一	一	一
	同十四年	一六	一	一五	一	一	一	一	一	一
	昭和元年	一六	一	一五	一	一	一	一	一	一
合計	三二	二	三十	二	二	二	二	二	二	
其ノ他	大正十三年	六	一	五	一	一	一	一	一	一
	同十四年	六	一	五	一	一	一	一	一	一
	昭和元年	六	一	五	一	一	一	一	一	一
合計	一二	二	一〇	二	二	二	二	二	二	

(二) 死亡者病類

鑛夫死亡者ノ病類別比較ハ第七表ニ示スカ如ク各鑛種ヲ通シテ負傷ニ因ル死亡最モ多數ニシテ呼吸器疾患ニ因ル死亡之ニ次ク各鑛種別及男女性別ニ記述スレハ左ノ如シ

石炭山 負傷ニ因ル死亡者ハ男ニ著シク多數ニシテ總死亡數ノ三割七分ヲ占ムルモ女鑛夫ニテハ二割三分ナリ呼吸器疾患ニ因ル死亡者ハ男一割八分ナルモ女鑛夫ハ二割六分ニシテ負傷ヨリモ多數ナリ消化器疾患死亡者ハ男女トモ總死亡數ノ八分弱ニ過キス

金屬山 負傷及呼吸器疾患ニ因ル死亡者甚タ多ク負傷ハ總死亡數ニ對シ男二割六分女二割四分ヲ占メ呼吸器疾患ハ男死亡者ノ二割五分女死亡者ノ二割七分ナリ消化器疾患ハ石炭山ニ於ケルヨリモ少ナク男女トモ各六分ニ過キス

石油山及其ノ他非金屬山 總死亡者少數ニシテ統計的ニ意義大ナラス殊ニ女鑛夫ハ死亡者數僅カニ數名ニ過キス殆ント統計的價値ヲ有セス性別ニ比較シ得スト雖モ總死亡者ニツキ原因ヲ觀察スレハ石油山及其ノ他非金屬山共ニ負傷ニ因ル死亡最モ多ク呼吸器疾患及消化器疾患比較的多數ナルヲ見ル而シテ消化器疾患ニヨル死亡者ハ石炭山及金屬山ニ於ケルヨリモ割合大ニシテ石油山ニ

合計	大正十三年		同十四年		昭和元年		合計
	男	女	男	女	男	女	
死亡者數	七六〇	一〇〇	六九五	九三	六三三	六六	一九八〇
死亡率	一五・八%	一・七%	一五・五%	一・九%	一五・〇%	一・七%	一五・八%
死傷	四〇六	一〇	三〇四	一	三〇四	一	一〇一〇
疾病	三五四	九〇	三九三	九二	三二九	六五	九七〇
死傷	一〇・七%	一・〇%	一四・五%	一・一%	一四・八%	一・一%	一四・七%
疾病	四六・〇%	九・〇%	四七・〇%	八・〇%	四〇・二%	五・六%	四六・〇%

テハ總死亡ノ一割五分、其ノ他非金屬山ニ於テ一割二分ヲ占ム
第七章 鑛夫死亡者病類比較

病名	石炭山		金屬山		石油山		其ノ他非金屬山	
	男	女	男	女	男	女	男	女
	計	計	計	計	計	計	計	計
傳染性	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
結核	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
赤痢	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
霍亂	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
傷寒	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
肺炎	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
肺氣腫	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
肋膜炎	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
呼吸器	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
吸入器	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
消化器	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
泌尿器	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
生殖器	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
皮膚	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
運動器	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
外傷	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
中毒	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
其他	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

病名	石炭山		金屬山		石油山		其ノ他非金屬山	
	男	女	男	女	男	女	男	女
泌尿器	0.7	0.4	0.7	0.4	0.7	0.4	0.7	0.4
生殖器	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6
皮膚	0.5	0.8	0.5	0.8	0.5	0.8	0.5	0.8
運動器	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
外傷	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3
中毒	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
其他	34.4	34.4	34.4	34.4	34.4	34.4	34.4	34.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

二、傷病解雇者及治癒重傷病者

(一) 傷病解雇者數及治癒重傷病者數

最近十年間(大正十一年ヲ缺ク)ニ於テ負傷又ハ疾病ノ爲メ解雇セラレタルモノ一萬六千二百四十一人、傷病ノ爲メ三十日以上休業シ醫療ヲ受ケ治癒シタルモノ二十二萬五千六百二十三人アリ、兩者ヲ合シタル重傷病者ハ二十四萬千八百六十四人ノ多數ナリ、之ヲ鑛種別ニ區別スレハ第八表ニ示スカ如ク解雇者ニアリテハ石炭山總數ノ七割九分ヲ占メ、金屬山一割八分ナリ、又治癒者ニ於テモ石炭山

八割九分、金屬山一割二分ヲ占メ石油山及其ノ他非金屬山ハ解雇者治癒者共ニ極メテ少數ナリ、而シテ平均一年間ノ此等重傷病者數ハ解雇者石炭山千四百三十二人、金屬山三百三十二人、石油山二十七人、其ノ他非金屬山十三人ニシテ、治癒者ハ石炭山二萬千七百七十九人、金屬山二千九百二十八人、石油山二百八十七人、其ノ他非金屬山七十五人ナリ

此等重傷病者ヲ負傷及疾病ニ大別スレハ最近三年間ノ統計ニ於テ總解雇者ニ對シ負傷ニ因ル解雇者ハ石炭山五割二分、其ノ他非金屬山三割八分、金屬山三割六分、石油山五分ニシテ負傷治癒者ノ總治癒者ニ對スル割合ハ石炭山六割九分、其ノ他非金屬山六割三分、石油山四割三分、金屬山三割一分ヲ占メ、又男女性別ニ見レハ解雇者數男ハ女ノ六一倍、治癒者數男ハ女ノ三・二倍ニシテ解雇者ノ中負傷ハ男五割六分、女四割五分、治癒者ノ中負傷ハ男七割一分、女六割ニシテ負傷甚タ多數ナリ但シ此等負傷者ハ殆ント悉ク業務上災害ニ因ルモノナリ

(二) 傷病解雇者率及治癒重傷病者率

前述ノ傷病解雇者數及治癒重傷病者數ノ毎年六月末日現在在籍鑛夫數ニ對スル割合ヲ求ムレハ鑛夫千人ニ對スル平均一年間解雇者四・八人、治癒者六・七二人ニシテ鑛種別ニハ左ニ示スカ如ク解雇者率ハ比較的其ノ差少キモ其ノ他非金屬山ハ甚タ低率ナリ、然ルニ治癒者率ニ於テハ石炭山著シク大ニ、其ノ他非金屬山甚タ小ニシテ治癒重傷病者率ニ對スル解雇者率ノ割合ハ石炭山最モ小ナリ

石炭山	解雇者率	治癒者率
五・一三%	七・七九%	七・七七%

金屬山	四・一一%	三・六二%
石油山	三・三八%	三・五七%
其ノ他非金屬山	一・九七%	一・三二%

男女性別ニ比較スレハ最近三年間ノ統計ニ於テ解雇者率ハ石炭山ニテ男ハ女ノ二倍、金屬山及石油山ニテ男ハ女ノ一・三倍ニシテ、治癒者ノ率ハ石油山及其ノ他非金屬山ニテ男稍高率ナルモ石炭山及金屬山ニテハ男女殆ント同率ナリ、又負傷及疾病ニ大別スレハ概シテ負傷ハ疾病ヨリ高率ニシテ殊ニ治癒者率ニ於テハ石油山ヲ除クノ外悉ク遙カニ負傷者ノ率大ナルヲ見ル

(三) 重傷病者率累年比較

解雇者ノ率ハ大正十年ニ於ケル鑛夫千人ニ付六・九人ヲ以テ最高トシ、累年其ノ差比較的大ナラス最高最低ノ差三・五人ニ過キサレトモ大正十年以降稍増加セルヲ見ル、蓋シ鑛業ノ不振ハ從業者ノ需要大ナラサル爲メ傷病治癒者ニシテ業務ニ不便ナルモノ若ハ體質優良ナラサル者ノ解雇セラレ、モノ多數ナルニ因ルカ如シ

治癒重傷病者ノ率ハ大正九年以降著シク激増シ大正十三年ノ鑛夫千人ニ付八・八人ヲ最高トス、其ノ後稍減少セリト雖モ最高最低ノ差實ニ四・六・九人ニシテ最近ニ於テハ大正八年以前ニ比シ約二倍ノ多數ヲ示ス、斯ノ如キハ前章ニ述ヘタル業務外傷病者ノ率ニ於テモ、又死亡者及解雇者ノ率ニ於テモ認ムルコト能ハサル處ニシテ治癒重傷病者ニ限ラレタル顯著ナル現象ナリ、蓋シ假リニ坑内作業カ逐年深度ヲ増加シ來ル爲メ災害ノ發生或ハ從業者ノ健康ニ就キ不良ノ傾向ヲ加フルモノアリト

スルモ、之ニ對スル安全設備及衛生上ノ施設ハ漸次改善セラル、ヲ認ムルヲ以テ、寧ロ從業者ノ生命及健康ニ對スル從業者自身及事業主ノ衛生思想ノ向上、施設ノ改善ニ依リ傷病ニ際シ萬全ノ治療ヲ期スル爲メ其ノ療養休業日數比較の長期ニ亘ルモノ増加セルニ因ルモノト認メラル、鑛種別累年狀況左ノ如シ

石炭山 解雇者ハ大正七年乃至九年ノ三年間稍低率ナル外増減著シカラス、治療者ニ於テハ大正八年ヲ最小トシ九年以降激増シテ大正十二年ニハ鑛夫數ノ約一割ニ達シ爾來一割弱ヲ下ルコトナシ金屬山 解雇者ノ率ハ大正八年迄鑛夫千人ニ付約三人ナリシモノ大正九年以降稍増加シテ五人トナリ大正十年ハ甚タ高率ヲ示シ八人強ニ達ス、治療重傷病者ニ於テモ逐年増加シ大正十二年ノ五十九人ヲ最高トシ近年五十人ヲ下ラス

石油山 解雇者ノ率ハ概シテ三乃至四人ノ間ニ在リテ累年變化甚シカラサルモ大正十二年ニハ六人弱ヲ示シ稍高率ナリ、治療重傷病者ハ大正九年最高ニシテ爾來稍高率トナレルモ石炭山金屬山ニ比較スレハ甚タ低率ナルノミナラス累年増加ノ程度モ比較的小ナリ
其ノ他非金屬山 解雇者率及治療重傷病者率共ニ累年各鑛種ノ最下位ニアリ多少ノ増減アルモ特ニ記載スヘキモノナシ

第八表ノ一 鑛夫重傷病者數及重傷病者率累年表

年次	重傷病者數					重傷病者率(千分比)				
	石炭山	金屬山	石油山	其ノ他	合計	石炭山	金屬山	石油山	其ノ他	合計
大正六年	1,062	421	31	1	1,515	5.3	2.7	0.1	0.0	8.1
大正七年	1,461	444	19	6	1,930	5.9	2.8	0.1	0.0	8.8
大正八年	1,328	344	33	1	1,706	5.4	2.0	0.2	0.0	7.6
大正九年	1,969	405	33	4	2,411	8.4	2.5	0.1	0.0	11.0
大正十年	1,872	375	34	2	2,283	7.8	2.4	0.1	0.0	10.3
大正十一年	1,556	249	33	1	1,839	6.6	1.3	0.1	0.0	8.0
大正十二年	1,556	249	33	1	1,839	6.6	1.3	0.1	0.0	8.0
大正十三年	1,461	368	37	1	1,867	6.2	2.0	0.2	0.0	8.4
大正十四年	1,434	323	35	1	1,803	6.0	1.8	0.2	0.0	8.0
昭和元年	1,033	275	33	1	1,342	4.6	2.0	0.2	0.0	6.8
平均一年	1,433	333	33	1	1,800	6.0	1.8	0.2	0.0	8.0

年次	傷病解雇者數					傷病解雇者率						
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
大正六年	1,062	421	1,483	5.3	2.7	8.0	5.3	2.7	8.0	5.3	2.7	8.0
大正七年	1,461	444	1,905	5.9	2.8	8.7	5.9	2.8	8.7	5.9	2.8	8.7
大正八年	1,328	344	1,672	5.4	2.0	7.4	5.4	2.0	7.4	5.4	2.0	7.4
大正九年	1,969	405	2,374	8.4	2.5	10.9	8.4	2.5	10.9	8.4	2.5	10.9
大正十年	1,872	375	2,247	7.8	2.4	10.2	7.8	2.4	10.2	7.8	2.4	10.2
大正十一年	1,556	249	1,805	6.6	1.3	7.9	6.6	1.3	7.9	6.6	1.3	7.9
大正十二年	1,556	249	1,805	6.6	1.3	7.9	6.6	1.3	7.9	6.6	1.3	7.9
大正十三年	1,461	368	1,829	6.2	2.0	8.2	6.2	2.0	8.2	6.2	2.0	8.2
大正十四年	1,434	323	1,757	6.0	1.8	7.8	6.0	1.8	7.8	6.0	1.8	7.8
昭和元年	1,033	275	1,308	4.6	2.0	6.6	4.6	2.0	6.6	4.6	2.0	6.6
平均一年	1,433	333	1,766	6.0	1.8	7.8	6.0	1.8	7.8	6.0	1.8	7.8

備考 一、患者數ハ業務上災害ニ因ルト否トヲ問ハス總テ負傷又ハ疾病ノ爲メ解雇セラレタル者或ハ三十日以上休業醫療ヲ受ケ治療シタル者ノ總數ナリ
二、重傷病者率ハ前記患者數ノ毎年六月末日現在々籍鑛夫數ニ對スル千分率ナリ

鑛種別	年次	傷病解雇者數					傷病解雇者率						
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
石炭山	大正十三年	1,461	368	1,829	6.2	2.0	8.2	6.2	2.0	8.2	6.2	2.0	8.2
	大正十三年	1,461	368	1,829	6.2	2.0	8.2	6.2	2.0	8.2	6.2	2.0	8.2

合計	山非其 金ノ 屬他	石油 山	金屬 山	石炭 山	治癒重傷病者數		治癒重傷病者千分率	
					男	女	男	女
合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計
昭和元年	昭和元年	昭和元年	昭和元年	昭和元年	昭和元年	昭和元年	昭和元年	昭和元年
同十四年	同十四年	同十四年	同十四年	同十四年	同十四年	同十四年	同十四年	同十四年
大正十三年	大正十三年	大正十三年	大正十三年	大正十三年	大正十三年	大正十三年	大正十三年	大正十三年
昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年	昭和十三年
昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年	昭和十四年

第八表ノ三 負傷疾病別治癒重傷病者數及治癒重傷病者千分率

鑛種別	年次	治癒重傷病者數		治癒重傷病者千分率	
		男	女	男	女
石炭山	昭和元年	二,七〇七	二,三六九	七.〇	六.七
	同十四年	二,〇七七	一,七〇七	六.七	六.〇
金屬山	昭和元年	一,四六〇	一,四〇〇	四.三	四.一
	同十四年	一,〇九一	一,〇〇〇	三.三	三.〇
石油山	昭和元年	一〇六	一〇九	〇.三	〇.三
	同十四年	一〇六	一〇九	〇.三	〇.三
山非其 金ノ 屬他	昭和元年	六	七	〇.〇	〇.〇
	同十四年	七	八	〇.〇	〇.〇

合計	非金屬山			其他		
	合	計	計	合	計	計
大正十三年	二四、三三三	四、一〇三	二八、三三三	二、八七	八、六五九	九、五三六
同十四年	二二、六六一	四、四八八	二七、一四九	三、〇九四	七、〇九六	九、一九〇
昭和元年	二四、三三三	三、〇七二	二七、四〇五	三、七三三	五、七三三	九、四六六
合計	四三、二六三	一、六五五	四四、九一八	一、〇〇〇	二、五八八	三、五八八

(四) 重傷病者ノ病類

重傷病者ニ於テハ前述ノ如ク石油山解雇者ヲ除クノ外負傷者最モ多數ニシテ殊ニ治癒者ノ過半數ハ負傷者ナリ、各鑛種男女性別病類比較ハ第九表ニ示スカ如シ、其ノ概要ヲ摘録スレハ左ノ如シ

石炭山 解雇者ニ於テハ負傷五割六分ヲ占メ男女別ニハ男五割七分、女四割七分ナリ、其ノ他呼吸器、神經系及消化器ノ疾患稍多數ニシテ其ノ他男鑛夫ノ脚氣及女鑛夫ノ子宮疾患之ニ次クモ何レモ總疾患ノ一割ヲ超ユルモノナシ、治癒重傷病者ニ在リテハ負傷七割ヲ超エ著シク多數ニシテ尙呼吸器病及消化器病稍多數ナリ

金屬山 解雇者ニ於テ負傷ハ三割四分ニシテ石炭山ニ於ケルヨリモ遙カニ少シ、然ルニ呼吸器病ハ二割三分ヲ占メ第二位ニアリ、其ノ他呼吸器疾患及消化器病稍多數ナリ、治癒重傷病者ハ負傷甚タ多ク總疾患ノ五割九分ヲ占メ、其ノ他呼吸器病及消化器病稍多數ナリ

石油山 解雇者ニ於テハ呼吸器疾患第一位ニシテ呼吸器病之ニ次キ共ニ二割以上ヲ占メ消化器病又一割七分ナリ、負傷ハ著シク少數ニシテ總疾患ノ六分ニ過キス、然レトモ治癒重傷病者ニ於テハ一

般鑛山ニ於ケルト同シク負傷第一位ニシテ三割九分ヲ占メ、其ノ他呼吸器病及消化器病之ニ次キ又呼吸器疾患及脚氣稍多數ナリ

其ノ他非金屬山 解雇者ニ於テハ負傷第一位ニシテ總疾患ノ三分ノ一ヲ占メ呼吸器病之ニ次ク、治癒重傷病者ニテハ負傷五割九分最モ多ク呼吸器病一割三分ニシテ第二位ニアリ

第九表ノ一 疾病又ハ負傷ニ因ル鑛夫解雇者ノ病類比較

病名	石炭山		金屬山		石油山		其他非金屬山	
	男	女	男	女	男	女	男	女
傳染病	0.07%	0.04%	0.05%	0.03%	0.04%	0.03%	0.03%	0.03%
赤痢	0.04%	0.04%	0.03%	0.03%	0.03%	0.03%	0.03%	0.03%
結核	1.95%	0.93%	4.06%	4.06%	3.33%	3.07%	3.75%	3.75%
微毒	1.04%	0.80%	0.06%	0.06%	0.06%	0.06%	0.06%	0.06%
脚氣	5.83%	2.99%	2.81%	4.00%	9.68%	9.26%	3.05%	3.05%
蒼白	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%
寄生蟲	0.05%	0.05%	0.05%	0.05%	0.05%	0.05%	0.05%	0.05%
其他	1.08%	0.44%	1.11%	4.05%	1.50%	1.31%	4.94%	1.31%
全體	10.00%	10.00%	10.00%	10.00%	10.00%	10.00%	10.00%	10.00%
全病	10.00%	10.00%	10.00%	10.00%	10.00%	10.00%	10.00%	10.00%
身病	0.08%	1.39%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%
其	0.08%	1.39%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%
腦出血、腦軟化	0.08%	1.39%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%
其他	0.08%	1.39%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%
神經系	0.08%	1.39%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%
其	0.08%	1.39%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%
疾	0.08%	1.39%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%
患	0.08%	1.39%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%	0.08%

計	其 他	外 因 患 疾 ル ヨ			皮 膚 及 運 動 患 疾 ノ 器		泌 尿 生 殖 器 患 疾 ノ 器			消 化 器 患 疾 ノ 器		呼 吸 器 患 疾 ノ 器		血 行 器 患 疾 ノ 器	
		中 負 傷 毒 他			皮 膚 患 疾 ノ 器		淋 菌 患 疾 ノ 器			十 二 指 腸 患 疾 ノ 器		肺 炎 患 疾 ノ 器		血 行 器 患 疾 ノ 器	
		其 他			其 他		其 他			其 他		其 他		其 他	
100.0	38.4	1.3	0.6	57.3	1.3	0.6	0.3	0.5	5.0	6.4	1.8	1.5	1.5	1.5	
100.0	40.4	1.9	0.6	46.3	0.4	0.3	0.6	1.1	8.9	0.8	9.7	0.9	1.4	1.4	
100.0	38.7	1.4	0.5	56.2	0.7	0.3	0.9	1.3	5.5	0.7	7.1	1.3	1.3	1.3	
100.0	40.6	0.9	0.5	46.7	0.4	0.3	0.6	1.1	7.2	0.4	9.8	0.7	1.8	1.8	
100.0	40.4	1.9	0.5	46.3	0.4	0.3	0.6	1.1	8.9	0.8	9.7	0.9	1.4	1.4	
100.0	40.4	1.9	0.5	46.3	0.4	0.3	0.6	1.1	8.9	0.8	9.7	0.9	1.4	1.4	
100.0	40.4	1.9	0.5	46.3	0.4	0.3	0.6	1.1	8.9	0.8	9.7	0.9	1.4	1.4	
100.0	40.4	1.9	0.5	46.3	0.4	0.3	0.6	1.1	8.9	0.8	9.7	0.9	1.4	1.4	
100.0	40.4	1.9	0.5	46.3	0.4	0.3	0.6	1.1	8.9	0.8	9.7	0.9	1.4	1.4	
100.0	40.4	1.9	0.5	46.3	0.4	0.3	0.6	1.1	8.9	0.8	9.7	0.9	1.4	1.4	
100.0	40.4	1.9	0.5	46.3	0.4	0.3	0.6	1.1	8.9	0.8	9.7	0.9	1.4	1.4	

第九表ノ二 治癒シタル鑛夫重傷病者ノ病類比較

病 名	石 炭 山	金 屬 山	石 油 山	其 他 非 金 屬 山	傳 染 性 及 全 身 病										呼 吸 器 患 疾 ノ 器	血 行 器 患 疾 ノ 器	神 經 系 患 疾 ノ 器	其 他 患 疾 ノ 器					
					結 核					白 癩									其 他 患 疾 ノ 器				
					結 核					白 癩									其 他 患 疾 ノ 器				
男	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0						
女	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0						
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0						
男	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0						
女	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0						
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0						
男	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0						
女	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0						
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0						

計	其他	其ノ	因患疾ル		外ヨ 負傷	皮膚及 運動器 患疾ノ器		泌尿生殖器 患疾ノ器		消化器 患疾ノ器	
			其 患疾ル	中 負傷		其 患疾ル	ロイ マチ ス	其 患疾ル	子 宮 疾	腎 臟 疾	淋 疾
100.0	2.6	3.4	0.4	0.6	2.7	0.7	0.5	0.4	0.8	0.3	0.5
100.0	3.4	3.9	0.6	0.1	3.5	0.6	0.3	0.4	0.7	0.4	0.4
100.0	2.6	3.4	0.8	0.4	6.9	0.7	0.4	0.5	0.7	0.3	0.3
100.0	3.6	4.3	0.3	0.8	6.1	1.6	0.2	0.4	0.9	0.6	0.6
100.0	7.5	8.9	0.9	0.1	7.5	2.2	0.2	0.3	1.2	1.1	0.3
100.0	4.7	6.1	0.6	0.7	5.4	1.8	0.4	0.4	0.7	0.4	0.4
100.0	6.1	7.4	0.9	0.4	6.2	1.9	0.5	0.3	1.1	1.0	0.1
100.0	8.1	9.4	1.1	0.4	7.0	2.7	0.5	0.3	1.6	1.3	0.7
100.0	6.0	7.4	0.9	0.1	6.0	1.6	0.4	0.3	1.1	1.0	0.1
100.0	4.3	5.4	0.5	0.3	4.3	1.6	0.2	0.3	0.6	0.6	0.1
100.0	6.3	7.7	0.8	0.8	6.3	2.1	0.6	0.6	1.1	1.0	0.1
100.0	4.3	5.4	0.5	0.3	4.3	1.6	0.2	0.3	0.6	0.6	0.1
100.0	6.3	7.7	0.8	0.8	6.3	2.1	0.6	0.6	1.1	1.0	0.1
100.0	4.3	5.4	0.5	0.3	4.3	1.6	0.2	0.3	0.6	0.6	0.1
100.0	6.3	7.7	0.8	0.8	6.3	2.1	0.6	0.6	1.1	1.0	0.1
100.0	4.3	5.4	0.5	0.3	4.3	1.6	0.2	0.3	0.6	0.6	0.1
100.0	6.3	7.7	0.8	0.8	6.3	2.1	0.6	0.6	1.1	1.0	0.1

三、死亡者及重傷者ノ負傷部位

本項述フル所ノ負傷ニ因ル死亡者及重傷者(解雇者及治癒者)ハ少數ノ業務外負傷者ヲ包含スルモノ

ナリト雖モ其ノ大多數ハ業務上ノ災害ニ依ル負傷者ナリ、其ノ負傷部位ヲ坑内夫及坑外夫ニ分チ比較スレハ第十表ニ示スカ如シ
坑内夫 下肢及ヒ足部ノ負傷最モ多數ニシテ總數ノ二割以上ヲ占メ手部及ヒ背腰部負傷之ニ次ク
坑外夫 足部及手部負傷最モ多ク何レモ總數ノ二割以上ニシテ下肢ノ負傷之ニ次テ多數ナリ

第十表 鑛夫ノ死亡者及重傷者ノ負傷部位比較

(一) 鑛種別坑内外夫總計負傷部位比較

部	位	手		上肢		背		胸		頸		顔		頭	
		部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部
金屬	山	計	1780	858	921	827	371	456	997	892	075	587	820		
		左	858	429	456	371	456	997	892	075	587	820			
石炭	山	計	1722	841	871	634	303	331	1310	753	044	632	710		
		左	841	420	431	303	331	1310	753	044	632	710			
石油	山	計	2037	993	1044	724	321	403	683	745	093	1003	1077		
		左	993	496	522	362	403	683	745	093	1003	1077			
其他非金屬	山	計	875	451	424	114	557	584	1459	1061	080	477	663		
		左	451	225	212	57	584	1459	1061	080	477	663			
合	計	計	1719	843	876	656	311	345	1275	768	047	630	723		
		左	843	421	438	328	345	1275	768	047	630	723			

(二) 鑛種別坑内夫負傷部位比較

部	頭		頸		胸		背		上		手
	面		部		部		部		部		
	右	左	右	左	右	左	右	左	右	計	
金屬山	九.二三%	五.七七	〇.七三	九.一九	一.一二	四.五〇	三.七三	八.二二	八.七〇	八.五二	一〇〇〇
石炭山	七.二九%	六.四四	〇.四三	七.四五	一.三四	三.二六	二.九七	六.二三	八.四七	八.三二	一〇〇〇
石油山											一〇〇〇
其ノ他非金屬山	七.九三%	六.一〇	〇.六一	一〇.九八	一.七〇	六.一〇	七.三二	一.三四	四.八八	一.八三	一〇〇〇
合 計	七.四三%	六.三九	〇.四五	七.五八	一.三三	三.三五	三.〇三	六.三八	八.四九	八.三二	一〇〇〇

部	下		足		合
	肢		部		
	右	左	右	左	
金屬山	八.二〇	七.三四	一.五五	一.二七	二〇.八六
石炭山	一〇.一五	九.八二	一.九九	一〇.八五	二〇.〇一
石油山	四.九六	六.一〇	一.〇七	九.四一	一七.〇六
其ノ他非金屬山	一〇.八八	八.七五	一.九六	八.四九	一三.七九
合 計	九.九二	九.五四	一〇.九七	一〇.九七	二〇.〇六

(三) 鑛種別坑外夫負傷部位比較

部	頭		頸		胸		背		上		手
	面		部		部		部		部		
	右	左	右	左	右	左	右	左	右	計	
金屬山	六.三〇%	六.三〇	〇.八二	八.七五	七.七八	五.〇〇	三.八八	八.八八	一〇.二四	一〇.二四	一〇〇〇
石炭山	四.二二%	六.二九	〇.五〇	八.三五	八.二七	二.九八	三.五六	六.五三	一〇.二四	一〇.二四	一〇〇〇
石油山	一.〇七%	一.〇三	〇.九三	七.四五	六.八三	四.〇三	三.二一	七.二四	一〇.四四	一〇.四四	一〇〇〇
其ノ他非金屬山	五.六九%	三.七九	〇.九五	一〇.四三	一.二八	五.六九	四.二七	九.九五	三.七九	三.七九	一〇〇〇
合 計	五.五一%	五.八五	〇.六四	八.五七	八.一七	四.三九	三.八三	八.二二	一〇.二四	一〇.二四	一〇〇〇

部	下		足		合
	肢		部		
	右	左	右	左	
金屬山	一.七二	八.五二	七.二一	一.五七	一五.七三
石炭山	一.六七	一〇.二二	九.九〇	二〇.一一	一〇.七四
石油山					
其ノ他非金屬山	六.七一	八.五四	七.三二	一.五八	一五.八五
合 計	一.六八	一〇.一〇	九.七〇	一.九八	一〇.七六

合 計	總括					
	手 部		下 肢		足 部	
	左	右	左	右	左	右
八・三九	一一・八三	九・九三	六・九四	九・二八	八・〇〇	二〇・六四
一・八六三	二・四〇七	二〇・三七	一〇・四三	八・九三	八・〇〇	二〇・六四
七・四六	九・五一	四・九六	一二・八〇	八・一三	一・五・四六	一・七〇六
一・三・八〇	一・八・二一	六・二〇	九・九五	八・二三	九・九八	一二・五五
二・三・七八	二・〇・八四	一・一〇七	二・二七五	一・七〇六	二・三・七八	二・二・二八
三・三〇	一一・六六	七・六五	七・二一	九・七七	一一・三〇	三・〇五
一〇・〇〇	一一・二六	七・九六	七・五八	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇

總括

一、平均一年間ニ於ケル鑛夫ノ業務外罹患者ハ男二十二萬二千八百七十七人、女九萬四千二百四十八人、合計三十一萬七千二百二十五人ニシテ鑛種別ニハ石炭山總數ノ八割九分、金屬山一割ヲ占メ其ノ他鑛山ハ極メテ少數ナリ

二、鑛夫ノ業務外罹患者ヲ疾病及負傷ニ大別スレハ疾病八割一分、負傷一割九分ナリ、之ヲ男女性別ニ觀察スレハ男ハ疾病七割八分、負傷二割二分ニシテ女ハ疾病八割七分、負傷一割三分ナリ

三、平均總罹患者ハ在籍鑛夫千人ニ付一年間患者千四百四十八人ニシテ、之ヲ男女性別ニ區別スレハ男鑛夫ハ千人ニ付患者千〇五十四人、女鑛夫ハ千人ニ付患者千四百五十六人トナリ、女罹患者率ハ男ノ

一、三倍ニ相當ス

四、負傷ヲ除ケル疾病者ノ平均罹患者率ハ在籍鑛夫千人ニ付平均一年間患者九百二十七人ニシテ、男女性別ニハ男八百二十三人、女千二百六十六人トナリ、女罹患者率ハ男罹患者率ニ對シ一・五倍ナリ

五、總罹患者率及罹患者率ヲ鑛種別ニ觀察スレハ總罹患者率ハ鑛夫千人ニ付平均一年間患者石炭山千二百七十八人、其ノ他ノ非金屬山九百八十八人、金屬山六百二十七人、石油山百七十人ニシテ、罹患者率ハ鑛夫千人ニ付平均一年間罹患者數石炭山千〇二十三人、其ノ他非金屬山七百六十九人、金屬山五百四十一人、石油山百五十二人ナリ

六、總罹患者率ヲ累年比較スレハ大正六年以降累年増加シ大正八年乃至十年ノ三年間高率ヲ示セルモ大正十二年以後再ヒ稍急激ニ低下シ爾後逐年漸減ノ傾向ニアルモノ、如シ

七、疾患ノ種類ハ概シテ負傷呼吸器疾患及消化器疾患多數ナルモ呼吸器疾患ハ金屬山及石油山ニ於テ二割以上ヲ占メ消化器疾患ハ金屬山及石炭山ニ於テ二割ヲ超ユ、然ルニ鑛夫數ニ對スル罹患者率ニ於テハ呼吸器疾患ハ石炭山及金屬山ニ高率ニシテ坑内作業ヲ有セサル石油山ハ著シク其ノ率低ク消化器疾患ハ石炭山及其ノ他非金屬山ニ高率ナリ

八、結核罹患者率ハ鑛夫千人ニ付平均一年間患者數石炭山五人、金屬山三人、其ノ他非金屬山二人、石油山〇五人ニシテ大正九年ヲ最高トシ各鑛種トモ増加ノ傾向ヲ示サス

九、肋膜炎罹患者率ハ鑛夫千人ニ付平均一年間患者數石炭山八人、金屬山及其ノ他非金屬山七人、石油山二人ナリ

十、脚氣罹病率ハ鑛夫千人ニ付平均一年間患者石炭山二十六人、其ノ他非金屬山二十二、金屬山十四人、石油山九人ニシテ大正八年ヲ最高トシ爾來漸次減少セリ

十一、微毒罹病率ハ鑛夫千人ニ付平均一年間患者石炭山十七人、其ノ他非金屬山十五人、金屬山五人、石油山〇、四人ニシテ大正十二年以降各鑛種トモ著シク減少セリ

十二、ロイマチス罹病率ハ鑛夫千人ニ付平均一年間患者金屬山十三人、石炭山十二人、其ノ他非金屬山十人、石油山二人ナリ

十三、死亡者數ハ平均一年間石炭山千九百十三人、金屬山四百二十六人、石油山三十人、其ノ他非金屬山十四人ニシテ死亡率ハ鑛夫千人ニ付平均一年間石炭山六、八人、金屬山五、三人、石油山三、七人、其ノ他非金屬山二人ナリ

十四、死亡者ヲ負傷及疾病ニ大別スレハ負傷ニ因ル死亡者四割四分、疾病ニ因ル死亡者五割六分ナリ、之ヲ鑛種別ニ見レハ負傷死亡者ノ總死亡數ニ對スル割合ハ金屬山二割八分、石油山三割、石炭山四割四分、其ノ他非金屬山五割五分ニシテ、疾病死亡者ハ金屬山七割二分、石油山七割、石炭山五割六分、其ノ他非金屬山四割五分ナリ

十五、死亡者ヲ男女性別ニ比較スレハ死亡人員ニ於テ男ハ女ノ五、八倍ニ相當シ、死亡率ニ於テ男ハ女ノ二、三倍弱ナリ、尙死亡率ヲ負傷及疾病ニ大別スレハ負傷死亡率男ハ女ノ二、三倍、疾病死亡率男ハ女ノ一、五倍ナリ

十六、重傷病者ニシテ解雇セラレタル者平均一年間ニ石炭山千四百三十二人、金屬山三百三十二人、

石油山二十七人、其ノ他非金屬山十三人ニシテ治癒シタルモノハ石炭山二萬千七百七十九人、金屬山二千九百二十八人、石油山二百八十七人、其ノ他非金屬山七十五人アリ、此等重傷病者ノ鑛夫千人ニ對スル平均重傷病者率ハ解雇者石炭山五、一人、金屬山四、一人、石油山三、四人、其ノ他非金屬山二人ニシテ、治癒者石炭山七十八人、金屬山及石油山各三十六人、其ノ他非金屬山十一人ナリ

十七、重傷病者ヲ負傷及疾病ニ大別スレハ解雇者ハ石炭山ニ於テ負傷過半ヲ占ムルモ其ノ他ノ鑛山ハ疾病遙カニ多數ヲ示シ治癒重傷病者ニ付テハ石炭山及其ノ他非金屬山ニ於テ負傷者六割以上ヲ占メ金屬山及石油山ニ於テハ疾病却テ遙カニ多數ナリ但シ此等負傷者ハ死亡ニ於ケルト同シク殆ント悉ク業務上災害ニ因ルモノナリ

十八、死亡者及重傷病者(解雇及治癒)ノ病類ヲ比較スルニ各鑛種トモニ負傷ハ常ニ第一位ヲ占メ死亡者病類ノ二割乃至三割六分、重傷病者病類ノ三割三分、乃至七割弱ヲ示シ殊ニ石炭山及其ノ他非金屬山ニ著シク多數ナリ、只石油山負傷解雇者ハ例外的ニ少數ナリ、呼吸器疾患ハ第二位ニ多ク、概シテ一割乃至二割五分ヲ占メ各鑛種トモ死亡者ニ甚タ多ク解雇者之ニ次キ治癒者ニハ比較的少數ナリ、而シテ金屬山及石油山ニ著シク多數ニシテ石炭山重傷病者ニハ比較的少ク總病類ノ一割未滿ナリ、消化器疾患ハ石油ヲ除クノ外概シテ死亡者重傷病者共ニ多數ナラス六分乃至一割餘ナリ、其ノ他チフス(バラチフス)含ム、結核、腦出血、腦軟化ヲ含ム、及血行器疾患ハ各鑛種共死亡者ニ比較的多數ナルモ重傷病者殊ニ治癒者ニハ少數ニシテ此等患等ハ其ノ實數甚タ多カラスト雖モ罹患者ニハ重篤ナル結果ヲ招クモノ多キヲ知ル

十九、死亡率及重傷病者率ヲ累年比較スレハ死亡率及解雇者率ニ於テ累年甚シキ増減ヲ認メサルモ治癒重傷病者率ハ大正九年以降激増セリ、蓋シ鑛夫ノ傷病療養ニ付慎重ノ度ヲ加ヘ長期間休業スルモノ増加セルニ因ルモノト認メラル

二十、負傷死亡者及重傷者ハ殆ント悉ク業務上災害ニ因スルモノト認メラレ、其ノ負傷部位ハ坑内夫ニハ下肢及足部、坑外夫ニハ足部及手部落著シク多數ニシテ總數ノ二割以上ヲ占ム

以上

昭和三年五月十日印刷
 昭和三年五月十五日發行

東京市京橋區木挽町九丁目
 商工省地質調査所内

日本鑛山協會

代表者

發行人 竹 永 喜 一

東京市京橋區瀧山町六、七番地

印刷者 小 川 邦 孝

東京市京橋區瀧山町六、七番地

印刷所 東京製本合資會社

電話銀座 (六六六) 二一〇番番番

4-4
797

NO.

"F-M"
PAMPHLET BINDERS

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thickness
851(菊倍)	30.cm.	x 22.5cm.	x 1cm.
852(四六倍)	26. "	x 18.5 "	x 1 "
853(菊)	22.5 "	x 15. "	x 1 "
854(四六)	18.5 "	x 12.5 "	x 1 "
855(特)	24. "	x 15. "	x 1 "

other sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES OF ALL KINDS

F. MAMIYA & CO.

OSAKA - TOKYO - FUKUOKA

終